

2021年1月29日

2020年度 聖路加国際大学大学院看護学研究科

課題研究

助産所での出産を決めるまでのプロセス

Decision-Making Process for Childbirth
among Healthy Women at Midwifery Birth Centers

19MW007

檀上 明佳

要旨

【目的】本研究では、妊娠中から助産所で妊婦健診を継続的に受け、その後に助産所で自然分娩を行った褥婦へのインタビューを通して、妊婦が助産所での出産を決めるまでのプロセスを明らかにすることを目的とする。

【方法】研究デザインは、質的記述的研究である。研究対象者は、妊娠中から助産所で妊婦健診を継続的に受け、その後に助産所で自然分娩を行った産後3カ月以内の褥婦とした。インタビューガイドを用いて半構造的面接を行い、研究参加者の属性、助産所に決定する際の情報収集過程、助産所に決定するまでの過程、助産所に決定した後の実際に関する質問を行った。分析方法は、ICレコーダーに録音された内容から逐語録を作成し、コード化、サブカテゴリ化、カテゴリ化を行った。また、本研究は聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認を得て行った（承認番号20-A045）。

【結果】助産所での出産を決めるまでのプロセスとして、まず女性らは妊娠がわかると、【媒体からの情報収集】、【周囲の人から助産所の存在や特徴を知る】、【家族との話し合い】というプロセスを通して、助産所の存在を知り、助産所が出産施設を決める選択肢の一つとなっていた。そして、助産所見学や妊娠中の助産所利用経験から、女性らはより詳細に助産所の特徴を把握し、【助産所の実際を知る】というプロセスを経ていた。その後、女性自身あるいは女性の家族らと共に【妊娠・出産に対する自分の思いを再確認】したり、【出産施設の比較】を行い、最終的に助産所での出産を決定していた。また、一部研究参加者に見られたプロセスとして、【助産ケアに対する希望や価値観】を強く持ち、自ら助産所という場所を求めた結果、助産所での出産を決めるプロセスを踏んでいた研究参加者も存在した。助産所での出産経験がある経産婦に特徴的なプロセスとしては、既に助産所の存在や特徴を知っていることから、妊娠がわかると【出産施設の比較】を行って助産所での出産を決めていた。

【結論】本研究によって、助産所で出産を決めた女性らの情報収集の手段や、周囲に助産所での出産経験者の存在、共通して助産所見学に参加し、他施設との比較や女性自身の中で再考することによって、最終的に決定していたことが明らかとなった。それとともに、現在の課題として、女性らを取り巻く環境や行動によって出産施設の選択肢に差が生じることがあげられる。今後、助産所以外で出産した女性らにおける出産施設選択のプロセスについても明らかにすることで、女性らが出産施設を選択する際に十分に情報を得たうえで、自らのニーズに合わせて主体的に選択できる支援を充実させることが望ましい。